



おおあし

第2号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 検索 》

ハピネスの創造

1983（昭和58）年4月15日、「東京ディズニーランド」が開園し41年が経過したとのことです。私自身はこの「夢の国」に多くの頻度で足を踏み入れるほどではないのですが、ちょうどこの開園当初に今は亡き祖母とここを訪れ、スペースマウンテンというアトラクションに乗ったことはよく覚えております。この手の乗り物は双方苦手だったようで、二人で楽しめるはずのものがお互いといんでもない顔となって、苦笑いになってしまったことを思い出します。このアトラクションは今年の7月いっぱいをもって開園以来41年ぶりにリニューアルするという。昭和の時代に誕生した近未来のジェットコースターに久しぶりに乗りたいなと感じております。

この「夢の国」は今も昔も多くの人の心を惹きつけ、今日までに至っています。学校を訪れる人も、まるでそこに出かけたときのようにわくわくするような感情が沸き起こったり、気分を高揚させたりするような思いを抱かせることができれば、素敵なおもてなしを焼く思いです。その要因の1つとして挙げられるのは、ここで働いているキャスト（従業員）の笑顔とおもてなしの心なのではないでしょうか。なんでもこのキャストの大半はアルバイトの方々に賄われており、キャストとなるための研修期間もわずか3日ほどということですから驚きます。キャストはゲスト（お客様）にどのようにしたら「幸福感」を与えられるかを常に考え（ハピネスの創造）、行動していくことを教えられるそうです。特に手順や説明書のようなマニュアルは存在せず、仕事をするにあたっては以下のような運営上の決まり（行動規範）を守るよう指導されるようです。

- ・ 安全性（キャスト・ゲスト両方の安全を最優先すること）
- ・ 礼儀正しさ（挨拶・言葉遣い・笑顔、立ち振る舞い、おもてなしをすること）
- ・ 多様性（考え方の違いなどを歓迎し尊重すること）
- ・ ショー（毎日が初演だという気持ちを忘れず仕事をする）
- ・ 効率（チームワークを保って効率を高めること）

学校を運営する側にとってこのディズニーランドのキャストに対する教育方針は、活かせる部分も大いにあるのではと感じます。例えば、児童や職員の安全を最優先に考え、様々な危機を想定して対応を思考することや職員が礼儀正しく保護者や地域の方々と接し交流を深めていくことなどはとても重要なことと考えます。そして何よりも、児童に色々な意味での「幸福感」を与えることができたのなら、それこそ教師冥利につきるというものです。もちろん学校との違いもあります。例えば清掃を担当するキャストはゲストが気付かずぶつかってしまうことを避けるためにしゃがんで清掃せず、足で雑巾を動かしてきれいにするそうです。学校ではいくら児童の安全に気を配ってもこのような清掃の仕方はしませんし、児童にそのような指導もしません。また、ゲストに礼儀正しさを求めることはないと思われますが、学校では職員がそのことを率先垂範しつつ、児童にもきちんと指導していくことが求められます。そして児童に「幸福感」を与えるために、児童にとって大変なことや負担に感じることも、時には粘り強く頑張らせる時間も必要となってきます。教育の目的はそれとは違いますが、学校生活の中において少しでも多くの「ハピネス」を与えられるよう、私たちが行動規範を参考にすることはそんなにかかしくはないことでしょう。

連休明けの大芦小のキャストは、精一杯のおもてなしができるよう努めて準備して参ります。どうか奮ってご来校ください。

（校長 横尾 臣）